

『第4回 イベントゾーン基本計画検討懇話会』 要旨

1 日時 平成26年10月8日(水) 午後1時~2時50分(北別館403会議室)

2 内容 文化・コンベンションエリア基本計画(素案)について

3 主な意見の要旨

(文化・コンベンションエリア全体について)

- 既存施設との有機的な連携が重要である。既存施設も市内に限らず、より広い範囲で考え、施設をネットワーク化する視点が必要である。また、施設が駅前に必要であるということ、明確にする必要がある。
- 建物を造るのが目的ではなく、どう活用してもらえるかが大事である。ターゲット(利用者等)の設定に即して、建物や運用の仕方を考えるべきである。
- 文化・交流施設とコンベンション・展示施設の機能の複合化について、デメリットが出ず、メリットが活かせるように整備する必要がある。

(文化・交流施設について)

- 現文化センターは、市民の利用が圧倒的に多い。
- 現文化センターは、建て替えの時期が来ており、耐震、ユニバーサルデザインの対応もできていない。バスの最終便は早く、駐車場も不足している等、色々な問題があり、駅前に移転する必要がある。
- 大ホールの2,000席は、利用状況から見ると多すぎると思う。中ホールの800席は、市民会館と席数は同じだが、音楽等の実演に利用するという面では別の施設である。市民会館の使い勝手が悪いので、新しい施設に期待したい。

(コンベンション・展示施設について)

- 施設計画の前に、都市をあげての政策的、戦略的な理念が必要である。
- 何にでも使える施設として、多目的に使えるイメージを打ち出した方がよい。
- 姫路市にはポテンシャルがある。広がりや先の展望を見ていくのが重要である。
- スタッフを含めた運営システム、事業展開のシステムを充実させていく必要がある。
- 5,000㎡の施設を整備するに当たっては、いかに盛り上げ、使って頂けるような仕組みを造るか、姫路市の覚悟が必要ではないか。
- これまでにはない5,000㎡の施設ができると、これまでできなかった催事ができるようになり、姫路のコンベンションが広がると思う。

(管理運営について)

- 2つの施設が連携し、あるいは一体的に運用することが必要である。
- 利用窓口のワンストップ化等、利用者の使い勝手を損なわない運用が必要である。
- 管理・運営主体については、経費的な面だけではなく、例えば市民との関係等、多面的に評価することが必要である。

(その他)

- 市民活動やエリア内外との交流を受け入れる広場等の空間を確保すればよいのではないか。
- 災害対応について、単に建物の耐震化だけではなく、例えば1~2万人の帰宅困難者が生じたときにどうするのか、という点を考慮に入れる必要がある。
- 鉄道から見える景観は、姫路市の印象を大きく左右する。街路や空間の整備について、一体感があるようなものを考えて頂きたい。
- 駅からイベントゾーンまでの動線が重要である。催し物があった帰り道に食事ができる等、ゾーン全体の活性化を含めて検討頂きたい。

◆今後の方向性

- 本日の意見を計画に反映し、12月以降にパブリック・コメントを実施する。